

## 第3回ジョブ・カード制度推進会議における主なご意見

## 1. 議題1（新ジョブ・カード制度をめぐるこれまでの取組）

- 学生、正規雇用者・非正規雇用者などの属性ごとの取得者増減などがあれば、属性ごとの開拓可能性、個別の課題がわかるのではないか。

## 2. 議題2（ジョブ・カード制度推進のための当面の取組と重点事項・課題）

- 総合サイトの機能を充実させて、本来のキャリア・プランニング機能や能力証明ツールとしての機能のレベルアップを図っていくことが大事。
- 専門学校の学生の場合、必要な知識・技術に対する本人の認識、企業実習で感じたこと、将来的に関心がある職種などをジョブ・カードに記録させると有効である。
- ジョブ・カードを活用する機関（大学、専門学校など）においてカスタマイズ可能な仕組みとすることが有効ではないか。
- 大学等におけるジョブ・カードの活用にあたっては、その前提として、「ジョブ」について考えさせるプログラムを用意した方がいい。また、学校へのアプローチは、就活時期を踏まえて行うのがよい。
- 取得者数については、対象となる層の何%をおさえているか把握した方がいい。大学生の全体を母集団とし、そのうちどの程度使っているのかポジショニングをした上で、何%増やそうといった方向性があった方がいい。
- 人事評価制度が未整備の中小企業等において新ジョブ・カードを活用していただくということが、労働者が長期にわたってジョブ・カードを活用していく端緒になるのではないか。
- 中小企業向けに、作成支援ソフトウェアを十分に理解していただくような周知と、操作のサポートをお願いしたい。